

## 【様式1】

## 令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立南町小学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のノートを確認した結果、拗音、長音、促音が定着していない児童が20%程度いる。</li> <li>・絵日記等を添削した結果、句読点の打ち方が定着していない児童が20%程度いる。</li> <li>・国語のテストの結果、「は・を・へ」を正しく用いて文を書けない児童が30%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい言葉の使い方や文の書き方を理解できるようにするため、繰り返し音読をする。また、書く学習では、正しい例文を常に提示し、正しい文が書けるように繰り返し指導し問題の正答率の80%以上とする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数のテストの結果、文章問題を正しく読み取れていない児童が20%程度いる。</li> <li>・1学期のテストの結果から、「なんばんめ」の学習を正しく理解している児童は70%程度だった。</li> <li>・算数のテストの結果から、加法・減法の定着が不十分な児童が30%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を復習する時間を確保し定着を図ることで、算数テストの正答率を80%以上とする。</li> <li>・文章題中の「分かっていること」「聞かれていること」を押さえてから問題に取り組ませる。</li> <li>・加法・減法の反復練習を何度も行い、定着させる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートの結果、すすんで運動や外遊びをする児童は全体の80%程度であるが、体育の時間、固定施設で遊ぶ学習では、多様な動きを自分なりに考えられる児童が20%程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な動きに取り組むことができるように、よい動きなどのポイントを掲示したり、よい動きを称賛する言葉かけを行ったりする。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のワークシートを分析した。内容項目について自分事として捉えることが難しく、自分の生活に結び付けて考えることができる児童が80%程度だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目に示された道徳的価値を意識して考えられるように、ペアやグループでの話し合いや役割演技等を取り入れて、自分以外の様々な見方や考え方について児童が共有できる場面を意図的に設定する。</li> </ul>

東久留米市立南町小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すこと・聞くことテストの結果、最後まできちんと話したり聞いたりすることに課題がある児童が10%程度いる。</li> <li>・書くことに関するテストの結果や自分の考えを表記する場面で、書くことが苦手な児童が10%弱程度いる。</li> <li>・単元のまとめのテストや一人読みの音読の結果、言葉の意味を理解しながら正確に読むことができない児童が若干名いる。</li> <li>・単元のまとめのテストの結果や日々のワークシート等の中で、平仮名や片仮名、漢字を丁寧に正確に書けない児童が10%弱程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手が「聞いてください。」と声を掛け、聞き手の注意を向けさせてから分かりやすく伝えられるよう指導を行う。話すこと・聞くことテストで、平均80点以上を目指す。</li> <li>・「書くこと」の活動の際には、モデル文を提示したり、友達との対話を通して考えたりできるように指導する。テストの「書く」観点において、平均70点以上を目指す。</li> <li>・音読の際、文のまとまりごとに捉えられるよう範読をする。</li> <li>・正しく書けるまで繰り返し指導を行い、小テストで定着させる。学期末のまとめテストで平均80点を目指す。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元別テストの結果、繰り下がりの計算が定着していない児童が10%程度いる。</li> <li>・単元別テストの結果、時刻と時間や長さの概念が定着していない児童が30%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの時間で継続的に復習する時間を確保し定着を図る。また、生活と結び付けて考えられるよう、具体的な活動や体験を学習や日常生活の場面で設定する。既習事項の定着を図るために掲示物を整える。</li> <li>・普段の生活に結びつけながら考える指導を取り入れることで各単元のテストで平均80点を目指す。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートの結果、すすんで運動や外遊びができていない児童は全体の20%程度いる。</li> <li>・授業での見取りの結果、正しい技能のポイントを理解できていない児童は50%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で全員遊びの時間を確保するように係や教員から声を掛ける。</li> <li>・学習資料としてワークシートに良い動きなどの技能ポイントを示す。</li> <li>・授業では、児童が正しい技能のポイントを理解できるよう、ワークシートに技能のポイントを提示する。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記述の結果、自分の考えをもつことができる児童は90%程度いるが、自分の考えを自信をもって表現できない児童が40%程度いる。</li> <li>・ワークシートの記述と学校生活での見取りの結果、学習した内容を振り返り、日常生活に生かすことができていない児童が50%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや思いを児童一人一人が表現できるようにワークシートや中心発問を工夫する。また、ワークシートに書いたことをペア学習や机間指導で認めることで、自信をもって表現できる児童が70%に増えるよう目指す。</li> <li>・ワークシート等に自分の生活と結び付けて学習の振り返りを書くことが出来るようにする。</li> </ul>

東久留米市立南町小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した市学力定着度調査では、書くことと読むことの領域が全国と比べて25ポイント程度低い。文章を正確に読む習慣が身につけていないことが書く力にも影響していると分析する。</li> <li>・ワークテストの結果、知識・技能において、漢字の習熟度は平均正答率が60%程度であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読を単元の初期の段階で行い、言語事項の確認し確実に指導することで書くことと読むことの領域の結果が、全国平均に近づくことを目指す。</li> <li>・漢字の学習について、既習漢字の定着を確認しこに応じた声掛けを行い、学年正答率を70%に目指す。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した市学力定着度調査では、図形の領域が全国と比べて26ポイント程度低い。また、変化と関係の領域においても全国より22ポイント程度低い。問題や図形の意味理解が正確にできていないことが影響していると分析する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の性質や定義を確実に指導し、具体物を使ったり、デジタル教材を活用したりしてより視覚的で体験的な指導を行うことで全国平均に近づくことを目指す。</li> <li>・問題の意味理解に重点を置き、簡単な数に置き換えて考えさせる等して問題場面を正確にとらえさせる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートの結果、すすんで運動や外遊びをする児童は全体の80%近いが、自分の考えを表現したり、課題解決に向けて試行錯誤したりできる児童は10%程度である。</li> <li>・ワークシートの記述から、正しい技能ポイントを理解し運動できる児童は3割に満たない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートやタブレットを活用し、課題に対しての振り返りを行う。前時の振り返りを受けて、自分で課題設定できる児童80%を目指す。</li> <li>・主体的な学びを評価し、よりよい課題解決につながるよう個に応じた支援を行う。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のワークシートを分析した。</li> <li>内容項目について自分事として捉えることが難しく、学習したことを振り返り、自分の生活に結び付けて考えることができない児童が3割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分以外の様々な見方や考え方について、児童が共有できる場면을意図的に設定する。</li> <li>・交流学习後の思考の広がりや変容をワークシート等で評価し、具体的なイメージがもてるようにロールプレイ等を取り入れて気付かせる。</li> </ul>

東久留米市立南町小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の知識・技能面の特に、漢字ワークテストの学年正答率は71%であり、日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることが定着していない児童が10%以上いる。</li> <li>・1学期の思考・判断・表現面のワークテストの正答率は72%であり、授業の中で筋道立てて考える力や豊かに想像する力を養い、自分の考えをまとめることが苦手な児童が20%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの時間を既習事項の復習の時間に充て、知識や技能の定着を図る。漢字ミニテストを実施し、習熟度の低い児童は、事前に学習課題を出すなどして、最終的な定着率90%以上を目指す。</li> <li>・授業中に互いの意見の共通点や相違点を知れるペアやグループで話し合う時間を意図的に設け、思考力・表現力・判断力等の育成を図る。ふりかえりの時間を毎回積み重ね、考えをまとめさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期のワークテストの中で、「1けたや2けたでわるわり算(整数の計算)や「角(図形の作図)」が定着していない児童が20%以上いる。</li> <li>・授業のふりかえりノートや算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、筋道を立てて考えることが定着していない児童が20%いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの学習時間には、わり算や作図のプリントに重点を置き既習事項の復習の時間に充て、知識や技能の定着を図る。プリントは分かったことや分からなかったことを児童自身が振りかえり、選択し積み重ねることで、定着率90%以上を目指す。</li> <li>・問題解決型の学習を通し、互いの意見の共通点や相違点に気付かせる。ペアやグループで話し合う時間を意図的に設け、思考力・表現力・判断力等の育成を図る。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートからすすんで運動や外遊びをする児童は80%近いが、体力テスト意識調査の結果、東京都と比較して運動に苦手意識をもつ児童と得意な児童の差が大きい。</li> <li>・ワークシートの振り返りから、思考判断ができる児童は10%程度で、運動のポイントを理解しペアやトリオで友達に伝えられる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを活用し、めあて学習を推進する。めあてをたて、振り返ることができる児童が90%以上になるように指導する。</li> <li>・ペアやトリオで互いの良い点や課題を伝え合う活動の中にタブレットを活用する。各単元内の学び合いの時間には積極的にタブレットを活用する。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後のワークシートを分析した結果、自分の考えを意欲的に書こうとする児童が多いが、決まっている児童が発言を繰り返し、一度も発言しない児童がクラスに数名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内に全児童が自分の考えを表現できるように、ペアで話し合う活動を入れたり、名前シートを活用し発言を促したりする。</li> </ul>

東久留米市立南町小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストの結果、知識・技能において、学年の平均正答率が7割程度であり、特に漢字は平均正答率が60%程度であった。</li> <li>・R6年2月実施市学力定着度調査の結果、「読むこと」について、学年の得点率が57%程度であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の学習について、ドリルと小テストの直しを毎回確実にさせ、既習漢字を定着させる。</li> <li>・音読を毎回の授業で確実にやり、叙述に基づいて場面を想像し、自分の考えをもたせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストの結果、思考・判断・表現において学年の平均正答率が60%程度であり、文章題の内容や式の意味を正しく理解できていない児童が30%程度いる。</li> <li>・R6年2月実施市学力定着度調査の結果、「数と計算」の得点率が5割程度であった。特に除数が2桁、3桁の計算につまずきのある児童が30%程度おり、除法が正しくできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章で問われていることは何か、分かっていることは何かを図に表して提示するなどして具体的にイメージさせることで、数量の関係を捉えられるようにし、平均正答率を70%以上にする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果を全国平均と比較した。</li> <li>20mシャトルランでは男子▲0.6ポイント、女子▲1ポイント。50m走では男子▲0.14ポイント、女子▲2.44ポイント。長座体前屈では男子▲1.19ポイント、女子▲3.77ポイント。</li> <li>・走力、柔軟性が弱いことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟性を高める運動や走る運動を準備運動などで積極的に取り入れ、全国平均との差を0ポイントに近づけるようにする。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のワークシートを分析した結果、内容項目について自分事として捉えられず、自分の考えをもてない児童が20%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入にアンケート結果を提示したり、普段の自分を振り返る時間を設定したりして、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。</li> <li>・議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に捉えさせ、終末に自己を振り返る時間、発問を設定する。</li> </ul>

東久留米市立南町小学校 第6学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度全国学力・学習状況調査の結果、「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が59.2%であり、東京都と比較して16.1%下回っていた。</li> <li>・質問調査によると回答時間が足りなかった児童が39.5%であり、文章を読んで理解するのに時間がかかる児童が多いことが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の初めに言語事項を確認する時間を確保する。モジュールの時間を活用して漢字の学習を行う。漢字の小テストを定期的に行いながら既習漢字の定着を図る。言語についてテストの正答率が80%を超えるようにする。</li> <li>・授業で音読の時間を確保し、物語の様子を想像したり、筆者の意図を考えたりしながら読む習慣を身に付ける。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度全国学力・学習状況調査の結果、「変化と関係」の平均正答率が45.6%であり、東京都と比較して13.7%下回っていた。</li> <li>・「数と計算」の平均正答率は58.3%と東京都と比較して12.3%下回っており、計算の基礎基本の定着に課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの時間を活用して基礎基本の問題を反復し、「単位量当たりの大きさ」をはじめとして、基礎基本の力を定着させる。</li> <li>・形式的な指導ではなく意味指導も十分に行い、計算のきまりや意味に気付かせせる。テストの思考・判断・表現の部分で正答率を80%にする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症の影響で、2～4年生に行うべき運動経験が不足しており、特に器械運動では基本的な技能が身に付いていない児童が見られる。</li> <li>・単元末に児童を観察した結果、鉄棒では逆上がりができる児童は20%程度、マット運動では、後転ができる児童が50%程度、補助倒立前転は10%強であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の初めに既習事項の確認をする時間をとる。</li> <li>・GIGA端末を活用し、手本となる動画を視聴しポイントを押さえたり、自己の動きを動画で確認したりする。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で使用したワークシートを分析した結果、道徳的価値について80%程度の児童が理解できているが、行動に移すことは難しい。</li> <li>・授業で使用したワークシートを分析した結果、道徳的価値を自分の生き方を通して考えたり、議論したりする児童が20%程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、実際に自分の身に起きたらどのような言動をするか考えたり、実践できるようにするためにはどうしたらよいか話し合ったりする時間をとる。</li> <li>・導入を工夫し、興味を引き付けてから範読をする。また、話の内容を振り返られるように、教科書を開いたまま授業を進めたり、児童と確認した話の要点を板書したりする。</li> </ul>